

# ばれっと

2009  
**10**月  
No.122

## ■ すぽっとらいと

### 仙台シニアネットクラブ

パソコンスキルを持ったシニアボランティアを育てる

## ■ アラカルト

<ダイジェスト版>人材育成事業報告

・NPOマネジメント講座

「社会をよくするために自分に力をつける」

・NPO立ち上げいろは塾

■ 今月のサポ本

■ お知らせ

■ イベント紹介

10周年記念サポセンアルバム

Album No.7



出前サポセン (2007年～)

一番町のサポセンから飛び出し、  
各地域へお邪魔します！

サポセンにある情報や機能、サービスをパッケージにして、各地域へお邪魔する「出前サポセン」事業を2007年よりスタートしました。

出前サポセンでは、サポセンの紹介だけではなく、各地域で活動している団体の紹介や交流会なども行っています。サポセンに居ては分からない、各地域ならではの悩みや団体の状況などを知ることができる事業です。

# すぽっとらいと

◆市民活動サポートセンターを活用している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

## パソコンスキルを持ったシニアボランティアを育てる 仙台シニアネットクラブ

仙台シニアネットクラブは、シニアがシニアにパソコンを教え、共に学ぶを合言葉に、1998年に有志によって立ち上げられ、昨年団体設立10周年を迎えたベテラン団体です。

設立の経緯から運営の悩みとこれまでの活動を、事務局長の内海哲郎さんに伺いました。

### ●パソコン講座を通じて仲間との出会い

仙台シニアネットクラブ(以下、クラブ)発足のきっかけは、1998年3月、仙台中央郵便局主催の「情報のひろば・パソコン教室」を受講していた5人が、講座終了後も継続して自分たちが習得したスキルを活かした講座を開催していこうと、意気投合したことでした。シニア層が情報弱者になってしまっている現状を、何とかしたいという想いを共有して始まったのです。

その後、すぐに市や県の社会教育担当部局などに相談に行き、シニア層向けのパソコン学習会を開きたいということをお願いしていったそうです。市や前職のつながりを活かして、郵便局やNTTの支援を取り付けながら、仙台中央郵便局の会議室などを借りて、同年5月からパソコン講座を始めました。人づてにパソコンの使い方を教える会員を集めると同時に、講座の内容も企画していきました。

また、講座終了後には受講者に「シニアにパソコンを教えるサポーターになりませんか?」と呼びかけ、会員を集めていきました。シニアを情報弱者にしないこと、パソコンのスキルを持ったシニアを社会参画へ促すという、クラブの2つの柱は立ち上げ当初から行われていました。

### ●離島でのパソコン教室が活動を始める自信になる

そんなとき、気仙沼の離島、大島小学校でパソコン教室を開きたいと思っているが、手伝ってもらえないだろうかという打診が、宮城県を通じてありました。必要とされているのなら資金は持ち出してでもやろうということで、「宮城県情報技術活用地域活性化モデル事業」として、泊り込みでパソコン教室を行ないました。小学生からお年寄りまで島の多くの世代の人たちが参加し、大変喜ばれました。クラブのメンバーは感激したと共に、自分たちがやろうとしていることが求められて

いることなのだと実感し、自信が付いたといえます。

さらに、同じ時期に、市内各小学校でパソコンの使い方を教える「パソコン教室」も行いました。パソコンとプリンタを学校に持ち込んで子どもたちに教えると同時に、先生方にも教えていったそうです。

このような活動の積み重ねによって、2001年4月からせんだいメディアテークの7階スタジオで、不定期開催でしたが、パソコン講座「高齢者のためのITセミナー」を仙台市から受託することが決まりました。



▲ 高齢者のためのITセミナーの様子

### ●パソコン教室の拡大とNPOへの理解

少しずつ活動の幅も広がり、せんだいメディアテークでのパソコン学習会の定期開催と老人福祉センターやコミュニティセンター主催のパソコン学習会の支援、さらに不登校児へのパソコン教室も7月と12月の年2回開催するようになりました。特に、せんだいメディアテークでの学習会は、年間100講座、約1,500人が参加する規模にまでなりました。このように定期的に開催しているシニア向けのパソコン学習会は、全国でも仙台市のみだそうです。

活動を続けていく中で苦労も絶えませんでした。例えば、講師がボランティアだから参加費は無料でもいいだろうというような認識がまだまだ

あるそうです。必要経費を賄えるくらいの資金は当然必要。市民が公共サービスを提供しているという認識がまだないので、正しい理解と支援が欲しいということです。

また、行政や企業との信頼関係を築くのに苦労したといいます。「講座終了後にも検証を行って報告をきちんと行うことが必要。協力関係を築くのに10年掛かりました」と内海さん。

## ●活動の課題と今後の目標

このような成果が上がる一方、課題も出てきています。具体的には、次の2つです。

1つ目は、シニア層のライフスタイルにパソコン利用が馴染んでいないため、講座終了後に受講者が日常的にパソコンを使わなくなってしまうことです。折角操作方法を覚えても日常生活に取り入れていくなど、次のステップに繋がっておらず、今後その辺りをどのようにフォローしていくかが課題となっています。

2つ目は、指導する会員のレベルアップです。10年の間に社会的変化もあり、受講者がパソコンをどのように使いたいかという点に、差が出て要望が多様化しているため、それに対応して教える会員側もスキルの習得が必要になってきています。

これらの課題は、今後の目標にもなっています。「今の60代はパソコンの利用経験はあるが、決まったフォームで決まった使い方しかしてこなかったのもっと自由に使いたいというニーズはあるようです。そのようなニーズを掘り起こし、多様化する要望に対応しながら、新たな講座を開講すること。最近では、動画編集講座やデジカメ講座なども開いています」と内海さん。

10年の活動を経て、ニーズに対応した新たな目標を語ってくれました。



## 取材を終えて…

シニアがシニアにパソコンの使い方を教える活動を10年続けてきた、クラブ。時代状況の変化に敏感に対応しながら、習得したスキルによって自分で情報収集したり、さらには市民活動・ボランティアなどに活かして活動するシニアが増えるよう、活動を積み重ねてきました。組織をメンテナンスして変化をしながら、新たなニーズを掘り起こしていく、柔軟な仙台シニアネットクラブの活動が、仙台のNPOを支援する重要な活動だと感じました。  
(担当 大石 俊輔)

## 団体紹介

### 仙台シニアネットクラブ

シニア層のパソコン利用促進を目的に、1998年に設立された団体。習得したスキルによって自分で情報収集したり、さらには市民活動・ボランティアなどに活かし活動するよう促している。

現在会員数100名。

- ・インストラクター（講座講師）：18名
- ・サポーター（講座アシスタント）：82名

運営事務を担う事務局は4名、意思決定を担う、運営委員と幹事からなる役員会は18名。



■ 設立 1998年5月

#### ■ 連絡先

※9月29日まで

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-3

仙台市市民活動サポートセンター7階

※10月1日より

みやぎNPOプラザのブースへ移転します

〒983-0851 仙台市宮城野区榴ヶ岡5

みやぎNPOプラザ内

TEL&FAX 022-297-2232

メール ssnc01@ybb.ne.jp

## サポセンの ココが使える！

### ■サポセンの機能を フル活用

- ①ロッカー・事務用ブース：情報の収集と整理、また事業報告書など紙ベースの資料がかなりあるため、大変助かっている。
- ②レターケース：会員向けの案内などの受け取りなどにレターケースはよく活用している。

#### ■サポセンへの要望

パソコン教室を開けるような設備があるとうれしい。そういう設備ができれば、サポセンとクラブが工夫して講座などを一緒に開けると思う。

# アラカルト

◆市民活動に役立つ情報やサポセンで開催された講座や事業の報告など、毎月いろいろなテーマでお送りします。

## NPOステップアップ講座

— 平成21年度人材育成事業 報告 —

### 社会をよくするために自分に力をつける

日時：2009年7月28日(火)19:00~21:00

場所：仙台市市民活動サポートセンター セミナーホール

講師：V・マネジメント代表 松本 修一さん



今年度のNPOステップアップ講座は、全国屈指の講師陣によるNPOの人材育成に役立つ企画を用意しました。

その第一弾である今回の講座は、NPOにとって組織づくりのバイブルともいえる『共感のマネジメント』の著者であり、各地でNPOのリーダー研修を行っている松本修一さんを講師に迎え、NPOの一員・社会の一員として自分に何ができるのかを確認するワークショップと講義を行いました。

以下に、講義の内容をダイジェストでご紹介します。

#### ■自分と組織を考えるアンケート

講座の最初に参加者は、次のようなアンケートを記入しました。自分の気持ちや自分が所属する組織について考えることから、今回の講座は始まりました。

##### <アンケート>

- あなたは、なぜ今の活動(仕事)をしているのですか
- あなたは、何のために生きていますか
- あなたの所属する団体(組織)の使命(目的)はなんですか
- あなたは自分の所属する組織にどのような貢献をしようと思っていますか
- 組織に貢献するためにはどのような能力が必要だと思いますか

#### ■組織・仕事・自分の「現在の課題」を考える

まず最初は、個人ワークとして、参加者がそれぞれ、付箋に自分の組織・仕事・自分自身について「現在抱えている疑問、問題、課題」を書き出しました。

次に、各自が書いた課題について、グループ内で共有しながら似ている課題をグルーピングしました。「資金調達」や「事業運営の方法」、「スタッフの意識の差」、「組織内でのコミュニケー

ション不足」などの課題があげられていました。

この「課題を書き出す」作業は、問題解決の最初のプロセスです。ここで多くの課題を挙げることが重要になってきます。自分たちの組織を高めていこうとすれば、課題は見えてくるはずですよ。

#### ■企業よりも難しいNPOの組織運営

NPOの組織運営は非常に難しいものです。企業の場合は利益を上げる、商品を作る、売上を上げるなど目的がはっきりしていますが、NPOの目的は、抽象的になりがちです。

また、NPOはサービスの対象からお金をもらえない事も多く、どこかからお金を引っ張ってこなくてはなりません。NPOの財源は、事業費、寄附金、会費収入、行政からの助成金などがありますが、その中で自分たちの意志で活用できる財源を確保しないとお金に縛られます。

「日本には寄付文化がない」と決め付けるのではなく、寄付したくなるマーケティング戦略を組み立てることが必要です。

企業もうまく行かない時代、理念と利益のバランスをとりながら進めなくてはならないNPOには、より戦略的な組織運営が求められます。

#### ■ミッション+ビジョンをもつ

5年先にはどうするのか、将来像(ビジョン)を具体的に上げることも大切です。ミッションだけでは、どうしても抽象的になりがちですから、人によっていろんな解釈が成り立つので、あつれきが生じます。あげるべき成果はこれだということを確認し、5年後に達成するために、今何をなすべきか逆算することが組織運営の基本です。

カーナビは、目的地をインプットして高速を行くか下を行くかルートを決めますね。組織運営も同じで、目指すべきところはどこなのか、まず目的を共有化して、それからどのようなルートで進めていくかを考えるわけです。

## ■組織に甘えず自分に力をつける

日本人はどこかの組織に所属すると組織に甘えてしまう傾向があります。組織の中で人材を育成するには、人間は基本的に個人事業主であるという自覚をうながし、自分の能力を上げるよう伝えていかなければなりません。

そして、組織の人材を束ねるのがミッションです。組織に関わる一人ひとりの日常活動に

「ミッションはこれです！」という言動が表れたとき、それがその組織にとって「~らしさ」になるのです。

松本さんの講座は、自分と組織を見つめ、課題をあぶり出すワークショップと、その課題解決へのヒントが散りばめられた講義でした。講座終了後の車座になっての質問タイムにも多くの参加者が引き続き参加し、松本さんへ質問が寄せられていました。  
(担当 太田 貴)

# NPO立ち上げいろは塾

日時：2009年8月1日(土)13:30~15:00  
場所：仙台市市民活動サポートセンター 研修室5  
講師：仙台市市民活動サポートセンター スタッフ  
小松 州子、高橋 陽佑

サポセンに日々寄せられる相談の中で、NPOの立ち上げについての相談が増えてきました。

「NPO立ち上げいろは塾」では、団体を立ち上げるために整理すべきこと、気をつけたいことについて、ワークショップを通じて学びました。

## ■立ち上げに必要な手順と手法

活動を始めようとする動機はさまざまですが、大きく次の二つのタイプがあります。どちらの場合も、最初は個人の想いから始まります。

タイプA：自分や身のまわりが困っている

タイプB：自分の能力や資源を生かしたい

個人の想いを活動に結びつけ、団体を立ち上げるための手順を次にまとめました。

【気づき】身のまわりの問題や、自分がやりたいことを発見する

【学習】知識を増やし、問題の原因を分析し、解決策を考える

【啓発】一緒に学習しようと呼びかけて、まわりの人たちに考えを広める

【グループ化】関心をもった人たちで仲間を作る

仲間の集め方は、タイプAとBでは異なります。タイプAの場合は、勉強会やイベントなど自分が作り出す場の人々に参加してもらい、一緒に取り組む仲間を募っていきます。タイプBの場合は、他団体の催しものに出かけるなど自分が動いて出会っていきます。

グループ化した場合は、団体が小さな場合でも、次にあげた団体運営の基礎に取り組むことが大切です。

- ①目的をハッキリしよう
- ②必要なルールを皆で決めて簡単な文書にしよう
- ③役割を上手に分担しよう
- ④計画を立てて行動しよう

<二つのワークショップで自己チェック>

参加者それぞれが、現在の自分の想いや状況を整理するために、二つの個人ワークを行い、グループ内で発表しあいました。

### <ワーク1>想いを整理しよう

始めに個人ワークで、自分が感じている社会や地域の問題と「こうだったらいいな」という目指すべき地域や社会の姿を書き出しました。続いて、目指すべき姿のために、自分がどんなことをしたいのか書き出し、グループ内で発表しあいました。書き出すこと、人に伝えることで、自分の想いを改めて整理することが出来ます。

### <ワーク2>資源を整理しよう

二つ目のワークは、資源の確認です。

市民活動団体のお悩みの中でよくあげられるのが、人・物・金に関することです。一緒に活動していく仲間、支援してくれる人、活動するための資金、打合せなど活動のための場所、先進事例、助成金情報など、活動するために必要な資源はたくさんあります。

既に持っている資源を確認することで、これから必要な資源も明らかにすることができます。

## ●参加者アンケートより

- ・目的や考えがはっきりしていないことが、わかった。文字にして書き出したり考えを整理することの大切さを実感。
- ・活動の方向性を明確にして、仲間を増やしていきたい。
- ・他団体の活動事例など情報収集をしていきたい。

(担当 小松 州子)

# サポセン 日記

## 館内見回り

スタッフはサポセンが開館中に、1日4回の館内の見回りを行っています。全館の備品点検、交流サロン等の利用者人数確認など、サポセン全体の安全を守る大切な日常業務です。そして、利用者の方とのコミュニケーションをとる機会でもあるのです。

今回はそんな「見回り」の様子をご紹介します。いろいろな発見もあるんです。

### 8:40 鍵開け

「今日も1日お願いします」

朝の打合せの後、鍵開けに出発。まず7階に寄り、事務用ブースを開け、1フロアずつ順々に安全確認を行いながら下りていきます。

時計を見ると『8時55分』、玄関の自動ドアのスイッチを入れ、さあ開館です！

### 11:00 見回り①

印刷室の原稿台、コインベンダーを確認すると、お釣りの取り忘れを発見。利用者台帳を見ると、5階交流サロンにいる方と判明しました。よし、いそいそお届けです。

見回り時にポストを確認すると、レターケース利用団体宛の郵便が届いていました。郵便の受付記録を取り間違えないように、レターケースへ配達します。



### 14:00 見回り②

3階のトイレを確認すると、手洗いの水が流れっぱなしに…。

節水・節電のために、各階のトイレの様子もしっかり確認します。

### 16:00 見回り③

交流サロンがにぎわっています。見回りを通して団体さんの名前や活動内容をお声がけしながら覚えていきます。日々、勉強です。



届いたポスターを、5階の「ポスター掲示コーナー」に貼り替えます。

### 20:00 見回り④

夜の見回りは、電球の寿命がよく確認できます。今日は7階の蛍光灯がチカチカと…。翌日のスタッフに交換を引き継ぎノートに記録して伝えます。

### 22:00 鍵締め

7階から30分かけて鍵を閉めて閉館です。「お疲れ様でした～」

(担当 菊地 竜生)

## お知らせ ●○●

### 事務用ブース 新入居団体の紹介

6月に行われた事務用ブース入居団体募集により、新たに1団体が入居し、現在は、8団体がブースに入居しています。今回は、新しく入居した団体をご紹介します。

#### 9月からの NEW FACE

#### 市民がひらく糖尿病教室

糖尿病患者の「クオリティ・オブ・ライフ（生活の質）」を向上させる社会生活・環境づくりを目的に設立しました。

すでに通院されている方、およびその予備軍といわれる方々と共に学び、生活習慣を改善するきっかけの場を提供し、安心・快適なライフスタイルを築けるよう、活動しています。

#### ●事務用ブースとは？

サポセン7階に設置されている、市民活動団体が簡易事務所として使用できるスペースです。この事務用ブースは、団体のインキュベーター（注）を目的とし、入居団体が成長し巣立っていけるよう、支援の場として設置しています。

（注）インキュベーター：  
卵の孵化を意味するもの。

# 10月の イベント紹介

■サポートセンターで行われる、参加者募集中のイベントを紹介します。  
 ■原則として各団体に提出していただいた文章をそのまま掲載しています。  
 ■毎月5日締め切りで、翌月サポートセンターを会場に開催するイベント情報を募集しています。掲載をご希望の方はお問い合わせください。

## ●貸室での催し物

開催日時	イベントタイトル	貸室	参加費	主催/問い合わせ先
9月28日(月) 18:30~21:30	子供がコミュニケーションを通じて夢や目標を発見！その実現に向かって自立できるようにサポートします。	研修室1	初回のみ無料 2回目~2,000円 (事前申込必要)	NPO法人 日本スクールコーチ協会 東北支部 携帯:090-7068-1890 Fax:019-661-5337 (二階堂仁)
10月4日(日) 14:00~16:00	ワードでできるチラシデザイン講座 (10月7日も同じ内容です。 ご都合の良い日をお選び下さい)	研修室5	1,500円 (事前申込必要)	NPOメディアデザインサポート 携帯:090-3049-0613 Fax:022-224-5308 (千葉)
10月7日(水) 19:00~21:00	ワードでできるチラシデザイン講座 (10月4日と同じ内容です。 ご都合の良い日をお選び下さい)	研修室5	1,500円 (事前申込必要)	NPOメディアデザインサポート 携帯:090-3049-0613 Fax:022-224-5308 (千葉)
10月11日(日) 13:30~15:30	自分でできる！こころのセルフケア バッチフラワーセラピーミニ講座 体験ボトル作成付き	研修室1	資料・リユースの 体験ボトル付き 2,000円 (事前申込必要)	バッチネットワーク・東北 Tel&Fax:022-378-0832 メール:murakami@asakaze.net (村上)
10月18日(日) 13:30~15:30	講演会 障がい児家族の困難と母親役割 ~ジェンダーの視点から	研修室5	500円 (事前申込必要)	特定非営利活動法人 イコールネット仙台 携帯:090-1375-2871 Fax:022-215-7252 (綱島文江)

## 仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ

< 申込み・問合せ > TEL 022-217-3983  
 仙台市シニア活動支援センター (サボセン3階)

日時	イベント内容	会場	料金
9月26日(土) 10:00~18:00	◆セカンドライフ相談 「経済面」「健康」「生きがい」などの視点で、セカンドライフについてアドバイスします。 相談員:シニア元気笑学校 校長 渡辺 源治さん	研修室2 (3F)	500円 (事前申込必要)
10月10日(土) 10:00~18:00	◆専門相談 日本語教室、ホームステイ受入れ、日本文化を伝える活動などの、仙台に居ながらにしてできる国際協力の仕方教えます！	研修室1 (3F)	無料 (事前申込必要)

◆サボセンの図書コーナーの本を紹介します。



『すごい本屋！』

著者:井原 万見子  
 発行:朝日新聞出版  
 定価:1,680円(税込)

■この本は  
 「E まちづくり」にあります。

本書は、和歌山県の人里離れた山の中に、一軒だけある村の本屋さんのお話です。  
 本屋さんと言っても、日用雑貨や食品なども置いてある、言わば「よるずやさん」のようなお店です。そのお店の店主でもある著者が、作家や出版社や問屋の人たちの協力を得ながら様々なイベントを行っています。  
 例えば、絵本『ねずみくんのチョッキ』の原画展や、『かいけつゾロリ』の著者と呼んでのサイン会など、そこで巻き起こるハプニングや、楽しい事件を通して、子どもたちとのコミュニケーションを計っていく様子がユニークに描かれています。その子どもたちの純粋な心に、思わず涙ぐむ場面も出てきます。山の中からこそ、この地域で必要とされているものを提供することで、地域の活性化に繋がっています。  
 都会では、廃業に追い込まれる本屋さんが多い  
 今、こんな山の中の本屋さんか、どうして長い年、本屋を続けていけるのか、その理由が解るような気がする一冊です。  
 (担当 伊藤 香)

オススメ  
 今月のサポ本  
 『すごい本屋！』

# 主催イベントのお知らせ ●○○●

<申込み> TEL 022-212-3010

日時	イベント内容	会場	料金
8月5日(水) ～ 11月3日(火)	○エイブルアート展「アートワークショップ作品発表」 さまざまな技法を用いて描かれた、カラフルな作品の展示を行います。(作品提供:アフタースクールのびのびクラブ)	情報サロン (1F)	無料 (事前申込不要)
9月29日(火) 19:00～21:00	●ステップアップ講座 NPOが活動を展開していくには、団体のミッションや活動を伝えていくことが不可欠。想いをわかりやすい形・表現で発信し、インパクトのある広報について学ぶ講座を開催します。	市民活動 シアター (B1F)	1,000円 (事前申込必要)
10月17日(土) 10:00～17:00	○出前サポセン@将監市民センター サポセンの主なサービスをパッケージにし、サポセンの紹介だけでなく、地域の活動団体の紹介も行います。	将監市民 センター	無料 (事前申込不要)
10月27日(火) 19:00～20:30	○NPOいろは塾 NPOの基礎について、90分で分かりやすく学びます。	研修室5 (4F)	500円 (事前申込必要)
10月31日(土) ～ 11月1日(日) 10:00～15:30	○出前サポセン@太白区中央市民センター サポセンの主なサービスをパッケージにし、サポセンの紹介だけでなく、地域の活動団体の紹介も行います。 今回は、「ながまち交流フェスタ2009」へお邪魔します!	太白区 中央市民 センター	無料 (事前申込不要)

## ■お詫び

ぱれっと8月号(7月24日発行号)に掲載した、すぽっとらいと(2～3p)の内容に間違いがありました。正しくは下記の通りです。関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。

<すぽっとらいと 仙台JOCSの記事>

3p ●忘れちゃいけない、大事なこと 中の1行目

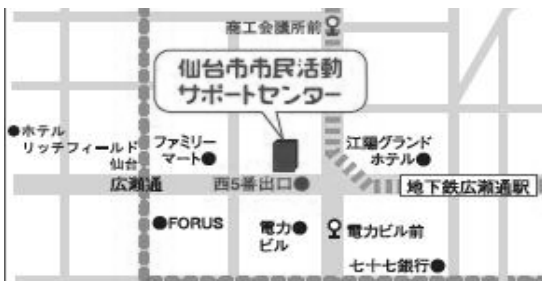
×誤 整理された切手は換金され、全国で年間数百万円

○正 整理された切手は換金され、全国で年間千数百万円

## ■ 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

## ■ 案内図



○当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車で来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注)路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

○ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

[最寄のバス停]

電力ビル前、商工会議所前、広瀬通一番町前、地下鉄広瀬通駅前

[地下鉄]広瀬通駅西5番出口すぐ

## ■ 開館時間

○平日 午前9時～午後10時

○日曜・祝日 午前9時～午後6時

## ■ 休館日のお知らせ(施設点検等のため)

9/30 10/28

## ■ 編集後記

◆サポセン日記で取り上げた「館内見回り」。時々、スタッフがうろろしているのを不思議に思った方もいらっしゃると思います。あれも、日々の重要な業務なんです。(内川)  
◆本号より編集班に入りました。よろしくお願ひします。この間、我が家の玄関でコオロギが元気に鳴いていました。しばらく聞き入った後、逃がしてあげました。秋ですね。(菅野)

発行:仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日:2009年9月25日

編集:特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人:内川奈津子 菅野祥子

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間:2007年4月1日～2010年3月31日]